

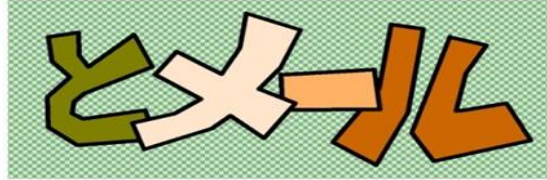


75歳医療費窓口負担2倍化ストップ!! 活動推進ニュース

発行団体

- 全日本年金者組合中央本部
 - 中央社会保障推進協議会
 - 全国保険医団体連合会事務局
 - 日本高齢期運動連絡会
- 東京都中野区中央5-48-5 シャン
ポール中野504
☎ 03-3384-6654

2022.5.25 No14



団体署名833団体から提出! (5月25日現在) 5月末まで集約ください

「75歳医療費窓口2倍化中止に向けて廃止法案提出」を立憲野党に要請

5/19 にまず立憲民主党に要請 217団体署名手渡す

5/19 15時より永田町立憲民主党本部別館で要請を行いました。参加者は中央社保協山口事務局長、是枝事務局次長、日本高齢期運動連絡会から吉岡代表委員、畑中事務局長、事務局武市、保団連から事務局上所さんが参加。立憲民主党からは党本部団体交流委員会参事永田雄之さんが対応していただきました。最初に、要請書を手渡し「この間の物価上昇国民生活が大変厳しくなっている、このような中、年金だけで生活している高齢者の生活は厳しくなっている。なんとでも75歳医療費窓口負担2倍化は中止をしてほしい。そのために国会の中で廃止法案を提出し、参議院選挙での大きな争点に押し上げてほしい」と要請。その後、各団体からそれぞれ要請を行いました。日本高齢期運動連絡会からは、この間取り組んだ「岸田さんこの声きいてよ」アンケートのまとめを報告。アンケートではこの一年間60%の人が、レジャーや旅行への支出、衣類の購入などを控えていること、中でも税の滞納などを経験したことがある方が多くいる実態があることが報告されました。中央社保協は、コロナ禍と物価高の現在、コロナ以前から決められている法案を強引に推し進めることが、高齢者のいのちを脅かすことになっていることが大きな問題だと指摘、保団連からは、2倍化法案が実施されると受診抑制が起こる。補正予算を組んで中止を延期してほしい、また、補正予算審議の中で是非ともこの問題を取り上げてほしいと要請をしました。永田参事からは、「現在の政権の政策はパッチワーク的な政策で大きな方向性が見えない。高齢者が生活の不安なく老後を過ごせるようにするのは政治の責任。参議院選挙は政権選択選挙ではないが、ここで勝利し、次の衆議院選挙につなげる必要がある。近々立憲民主党としても参議院選挙に向けて社会ビジョンのようなものを打ち出し、リベラル政策の実施を参議院選挙で訴えていきたいと考えている」「ウクライナの問題でも自分の都合がよい方向に議論を持っていこうとする動きがあるが、そういう意見にはきっぱりと反論していかないといけない」と答えました。



5/23 日本共産党にも要請 388団体の署名を提出 補正予算審議での取り上げ要望



5月23日、日本共産党の宮本徹衆議院議員へ団体署名388筆を提出し要請しました。日本高齢期運動連絡会吉岡代表、全日本年金者組合加藤副委員長、保団連から上所事務局員が参加しました。宮本議員へは、今月末にある補正予算審議の中で、75歳医療費中止を求める声を取り上げてほしいと要請。宮本議員からは、物価高で国民生活が大変になっている時に国民負担を増やすことは許せない。参議院選挙で勝つことが重要であることが強調されました。

「いのち・くらし・社会保障立て直せ一斉行動」5・16 全国一斉記者会見

5団体参加厚生労働省記者会見 富山・高知・愛知も実施



厚生労働所記者クラブの会見には全労連・民医連・医労自治労連・日本高連から参加しました。冒頭全労連の前田副議長が報告と挨拶を行いました。「5.26に今国会3回目となる署名提出国会行動を行う」こと、社会保障の脆弱さが明らかになる中、医療・介護・保育従事者の「社会的役割にふさわしい」賃金水準や体制の充実、社会保障拡充を求める思いは、地域住民、国民の思いであることが報告され、今こそ、「全世代型社会保障」政策の改善をすすめることが必要だと強く訴えました。その後各団体から以下の内容で報告が続きました。民医連、医労連、自治労連から報告。75歳窓口負担2倍化中止について、日本高齢期運動連絡会畑中事務局長が報告しました。報告では全国から集まった「岸田さんこの声聞いてよ!」に寄せられた1665通の声を分析した結果を報告しました。

医療費負担引き上げ 県民医連調査 高齢者 生活費切り詰めの実態

「受診控えにつながる」懸念

富山民医連記者会見

5/17 北陸中日新聞掲載

富山テレビでも放映されました

(北陸中日新聞掲載記事より転載)

十月から七十五歳以上の医療費窓口負担が一部の人で二割に引き上げられるのを前に、県民主医療機関連合会（民医連）は十六日、県内の六十五歳以上を対象に行った生活実態調査の結果を公表した。多くの高齢者が生活費を切り詰めている実態が浮かび上がり、同会は「引き上げは受診控えにつながりかねない」と懸念を示している。

調査は昨年十二月～今年二月にかけて実施し、富山医療生活協同組合を通じて、二百二十六人から回答を得た。複数回答が可能で、家計の節約のために「新しい服、靴を買うのを控えた」と答えた人が最多の百五十九人、次いで「趣味やレジャーの出費を減らした」が百五十三人、「家族、友人知人との外食を控えた」が百五十二人だった。

政府は十月から、原則一割となっている七十五歳以上の医療費の窓口負担を、年収二百万円以上の人を対象に二割に引き上げる。アンケートでは政府への意見として「医療費が二倍になるのはとても不安」「年金生活者にとってはとても響く」といった声が寄せられた。

県庁で会見した民医連の坂井直之事務局次長は「多くの人が出費を抑える中、二割へ引き上げになれば医療機関の受診抑制にもつながる。命が危ぶまれる問題だ」と述べた。